

令和2年度肝炎対策推進協議会 議事録

令和3年3月19日(金) 18時～19時
Zoomを用いたWEB会議

○委員からの推薦により吉治委員が会長に選任された。

<議題>

(1) 令和元・2年度の取組概要、令和3年度事業の計画(案)について

(主な質疑応答内容)

<委員長>肝炎ウイルス検査の受検者数の割合が3年連続最下位から脱却できた。さらに全国平均まで上げたい。

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業は、6種類ある分子標的薬を用いた化学療法による通院治療が対象になり、所得制限はあるが対象となる患者がかなり増える。先生方にはご負担をおかけすると思うが、患者さんにとって大きな進展であると思う。よろしくお願ひしたい。

<委員>肝炎ウイルス検査の受検者数の割合が3年連続最下位から脱却できたのをうれしく思う。

平成30年3月に「奈良県肝炎対策ガイドライン」が策定され、協議会で目標値の達成度を発表されていた。その後の協議会では進捗管理という意味での報告がないのはいかがか。

<事務局>今年度は新型コロナウイルス感染症緊急対応の所管課ということで、目標値の確認等しっかりできていないのが現状で、申し訳ない。

<委員長>疾病対策課中心にして新型コロナウイルス感染症対応は大変だと思う。我々拠点病院と情報共有しながら近づけてまいりたいと思う。

<委員>肝炎ウイルス検査受診率向上事業の医療機関数、受診券の配布数を令和2年度は増やしたということだが、受診券配布医療機関について工夫された点はあるか。

1月末までの支払実績が前年度よりかなり低い、前年度の445件より実績が増える見通しがあるのか。

<委員>協力いただいている先生方に聞いたところ、診療所に通っている方は検査が済んでおり、新規がなかなか進まないとのことであった。また受診券をすべて使用しなければいけないことにプレッシャーを感じている方もおられる。できる限り協力するが全部使うのは難しいということである。少しの検査費用を毎月請求するのも負担がかかる為、検査費用の請求方法も検討してほしいとの意見であった。

<委員長>前年度に実績がある医療機関に重点的に配布したと聞いている。今後の配布に関してどのように考えられているか。

<委員>ほとんど検査されていて、新規が難しい状況なので、枚数制限をかけず来られた方に検査をするということなら、さらに積極的にできるのではないかと。使い切るよう言われると手を挙げにくくなっているのが現状だと思う。

<委員長>対象者に十分配布できると良いのだが、どうしても予算の関係がある。新規開拓が難しいと思うが、一方で厚労省のデータによると奈良県はC型キャリアで治療されていない人が数千人と聞いている。それを探さなくてはいけない。検査をされていない、自覚していない人が多いので、ひとりでも多く検査を受けてもらえるよう進めたい。進捗は協議会で報告したい。

<事務局>今年度の受診票配布医療機関については、昨年度実績があった医療機関に加え、医師会に依頼し医療機関を募集したところ、委託医療機関数は大きく増加した。地域のばらつきもなくなった。受診券を使い切れない医療機関から受診券を引き上げ、足りない医療機関に追加するなど調整を重ねている。支払実績は、3月12日現在で372件となっており、さらに増加が見込まれる。

<委員長>名古屋市などは、これによって陽性者の拾い上げが進んだ。かかりつけ病院で確実に陽性者を拾い上げられるということになればと思う。医療機関には参加を含め、検討していただきたい。

<委員>重症化予防事業について患者会から3度ほど要望書を提出し、県の定期検査の要件について国どおりにしてほしいと要望してきた。国どおりの要件にされるということなのでうれしい。これまで県の要綱で対象外だった治療後の人の定期検査費用助成について、どのように周知されるのか。患者会の会員であれば伝えられるが、それ以外の方の周知についてどのように考えておられるのか。

<事務局>ホームページで公表し、奈良新聞や主要駅等のデジタルサイネージなどで周知したい。患者会のお力も借りたい。要綱通知の際も変更点が分かるように工夫し、ご協力をお願いしたい。

<委員長>県の広報に加え、拠点病院でも肝炎医療コーディネーター研修などで周知したい。

(2) 肝疾患診療地域連携強化事業における拠点病院の取組について（肝疾患相談センターからの報告）

(主な質疑応答内容)

<関係者>これから新型コロナウイルスの住民接種が始まる。これまで肝炎ウイルス検診に来られなかった方も新型コロナウイルス接種に来られると思うので、こちらで作成した啓発用資材を新型コロナウイルスワクチン接種会場に設置し、訪れた人に肝炎ウイルス検査の受診勧奨ができればよいのではと考えている。検診普及啓発のチャンスだと思う。協力いただけるのなら、肝疾患相談センターにお問い合わせいただきたい。

<委員長>県、市町村、マスコミ等使ってできるだけ広く県民に周知していきたい。その中でワクチン接種会場にちらしを置くことが可能な市町村はお願いしたいと考えている。

<委員>ワクチン接種は市町村の保健センター主導で進めている。肝炎ウイルス検査も行っている部署なので、良い機会だと思っている。接種会場で啓発したい。

<関係者>宇陀市には送付を予定している。ご協力お願いします。

<委員>奈良マラソン来場者に実施したアンケート結果を見ると市町村の肝炎検査の認知率が低い。切迫感がないとつくづく感じる。何かきっかけがあるのではないかと。1月15日に開催された国の肝炎対策推進協議会で協会けんぽでの受検勧奨などが効果あがっていると知り、うれしく思った。

<委員長>今後も周知を広げていきたい。

(3) 令和3年度奈良県肝疾患に関する専門医療機関の選定について

(主な質疑応答内容)

<委員長>奈良県はそれぞれの地域で肝臓専門医がおられる。そうでないところもある。専門医の数を増やし、それぞれの地域で診ていただきたい。令和3年度奈良県肝疾患に関する専門医療機関（案）を承認します。

<その他>

<委員>患者会では、「ウイルス性肝炎患者さんに役立つ制度」を肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業ができた年に県の監修を受けて作成し、専門医療機関に郵送または戸別訪問して配布した。4月には改訂版を送付できる見込みである。先生方には活用いただきたい。

<事務局>奈良県の肝炎対策について、皆様の熱心な活動の成果が出ていると感じる。今日のご意見を参考にして、さらに進めていきたい。